

一千を有し市況稍々活氣を帶ふ。

第三節 沿道の管見

北京を發して以來、日を重ねる二十、今や河南省を経て陝西省に入らんとす。潼關は實に陝西省の第一關門たり。

河南省は舊と河南郡と稱し、即ち秦の三川郡にして、洛陽を中心とせる大平原たり。洛陽は成周の地、漢の高祖改めて雒陽と名づく。蓋し漢は火德水を忌む。故に洛の水を去て佳を加ふるの意に出づと。所謂支那の中原にして、由來逐鹿の場、文華發展の地なれば、想へらく人煙稠密、商工業旺盛の一省たらんと。然るに黄河の鐵橋を過ぎて第一に眼に映じ、而も奇異の感に堪へざりしは穴居の部落なりとす。

試みに鄭州より潼關間の地勢に就て約言すれば、一般に開濶せる波狀地を成し、西するに隨ひて次第に其の標高を増すも、傾斜頗る緩なるか故に、行客常に平坦地を行くの感あり。沿道絶えて鬱蒼たる森林なく。只部落の地に楊、柳、柿、桑等の翠

古の雒陽
今の洛陽

地勢と地
質